

## 平成23年度事務事業評価シート(平成22年度分)

予算科目	会計	一般会計	001	款	03	項	01	目	02
事務事業名	人工透析通院費支給事業								
担当部署	健康福祉部生活支援課	0408000	電話	0187-63-1111			内線	162	

## ◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	01:安心して健やかに暮らせるまちづくり
	施策の大綱	03:社会福祉の充実
	施策	03:障害(身体、知的、精神)児・者福祉の充実
	施策の内容	04:経済負担の軽減
根拠法令等	大仙市人工透析通院費支給要綱	

## ◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	人工透析のため通院に要する交通費を助成することにより障害者の経済的負担の軽減を図る。
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	大仙市に居住する人工透析患者で、医療機関までの距離が片道5km以上の方。
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	人工透析のため通院を要する方に対し、交通費の一部を支給する。 ①1回の支給額は1km当り10円×通院距離(往復)×3ヶ月間の通院回数 ②7. 10. 1. 4月の年4回、前3ヶ月分を各医療機関から通院証明により確認の上支給する。
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	毎回、欠かすことのできない透析の通院患者の経済的・精神的負担軽減を図る。

## ◆実施Do

項目	名称	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度
活動結果 (事業の活動量を測る)	① 申請者数	人	49	72	72
	②				
	③				
成果 (事業の成果を測る)	① 支給額(5,000円)	円	1,520,000	-	-
	② 支給額(10,000円)	円	3,050,000	-	-
	③ 支給額(10円×往復距離×回数)	円		3,320,960	3,319,360
投入コスト	決算額		4,580千円	3,321千円	3,319千円
		一般財源	4,570千円	3,321千円	3,319千円
	人件費		714千円	705千円	713千円
		一般職員の年間従事人数	0.1人	0.1人	0.1人
		一般職員以外の年間従事人数	0.0人	0.0人	0.0人
	総コスト (決算額+人件費)		5,294千円	4,026千円	4,032千円

事業を取り巻く環境	これまで、片道10km以上、20km以上の方々に、月それぞれ5,000円、10,000円を支給していたが、平成21年度から片道5km以上の方に、キロ10円を基本として往復距離数・回数を乗じて得た金額を支給することにしたもの。
-----------	--

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	A
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となってこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	③【計画上の位置づけ】 施策を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	評価の理由	人工透析患者にとっては週2～3回の通院を必要とするため、経済的負担の軽減を図る重要な事業である。	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	A
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	A
	評価の理由	現在の算出基準は公平性があり、対象者も増えている。	
効率性	①【民間の活用】 指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	A
	②【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	A
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	A
	評価の理由	この事業は、他の事業と性格を異にしておりその統合も難しく、適正な支給を継続していくためにも現在の対応が効率的である。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	現状	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)
A 現状のまま継続 B 改善しながら継続 C 拡大 D 縮小 E 廃止 F 終了	現状	ほとんどの透析患者には周知されているが、年間を通して事業のPRを図りながら継続していく。